

臨床医学系

内科学講座

膠原病・リウマチ

著書

- 1 長澤浩平：ステロイドパルス療法の濫用を慎もう—大腿骨頭壊死の危険性から。ステロイドの使い方 146, 中山書店. 2006.
- 2 長澤浩平：ウェゲナー肉芽腫症。今日の治療指針 611-612, 医学書院. 2006.
- 3 長澤浩平：免疫異常からみる膠原病。Year Note Selected Articles. 127-137, メディックメディア. 2006.

総説

- 1 林真一郎, 田中将英, 小林弘美, 福野裕次, 長澤浩平：膠原病性間質性肺炎 皮膚筋炎／多発筋炎。治療学 40：1181-1184. 2006.

原著

- 1 Koarada S, Haruta Y, Mitamura M, Morito F, Tada Y, Ohta A and Nagasawa K: Ex vivo CD4+ T cell cytokine expression from patients with Sjogren's syndrome following in vitro stimulation to induce proliferation. Rheumatology 45: 392-399, 2006.
- 2 Nakamura T, Hayashi S, Fukuoka M, Sueoka N and Nagasawa K: Pulmonary infarction as the initial manifestation of Takayasu's arteritis. Intern Med 45: 725-728, 2006.
- 3 Nagasawa K, Tada Y, Koarada S, Tsukamoto H, Horiuchi T, Yoshizawa S, Murai K, Ueda A, Haruta Y and Ohta A: Prevention of steroid-induced osteonecrosis of femoral head in systemic lupus erythematosus by anti-coagulant. Lupus 15: 354-357, 2006.
- 4 Sheriff-Tadano R, Ohta A, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Koarada S, Tada Y, Nagasawa K and Ozaki I: Anti-fibrotic effects of hepatocyte growth factor on scleroderma fibroblasts and analysis of its mechanism. Mod Rheumatol 16: 264-371, 2006.
- 5 末松梨絵, 中村 恵, 副島嘉修, 村山司郎, 川崎俊三, 宮本祐一, 沖田信光：RS3PE 症候群の一例。武杵臨医誌 16：65-69, 2006.
- 6 Tada Y, Koarada S, Haruta Y, Mitamura M, Ohta A and Nagasawa K: The association of Behcet's disease with myelodysplastic syndrome in Japan: A review of the literature. Clin Exp Rheumatol 24: (Suppl 42) 115-119, 2006.
- 7 Tada Y, Koarada S, Tomiyoshi Y, Morito F, Mitamura M, Haruta Y, Ohta A and Nagasawa K: Role of inducible costimulator in the development of lupus in MRL/lpr mice. Clin Immunol 120: 179-188, 2006.
- 8 Tsukamoto H, Nagafuji K, Horiuchi T, Miyamoto T, Aoki K, Takase K, Henzan H, Himeji D, Koyama T, Miyake K, Inoue Y, Nakashima H, Otsuka T, Tanaka Y, Nagasawa K and Harada M: A phase I -II trial of autologous peripheral blood stem cell transplantation in the treatment of refractory autoimmune disease. Ann Rheum Dis 65: 508-514, 2006.

- 9 Washio M, Horiuchi T, Kiyohara C, Kodama H, Tada Y, Asami T, Takahashi H, Kobashi G, Abe T, Tanaka H, Nogami N, Harada M, Tsukamoto H, Ide S, Nagasawa K, Ushiyama O, Hotokebuchi T, Okamoto K, Sakamoto N, Sasaki S, Miyake Y, Yokoyama T, Mori M, Oura a, Sinomura Y, Suzuki H, Yamamoto M, Inaba Y and Nagai M: Smoking, drinking, sleeping habits, and other lifestyle factors and the risk of systemic lupus erythematosus in Japanese females: findings from the KYSS study. *Mod Rheumatol* 16: 143-150, 2006.

学会発表

全国規模の学会

- 1 福岡麻美, 青木洋介, 林真一郎, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 高柳恵: 当院におけるノカルジア感染症16例の臨床的検討. 第80回日本感染症学会. 東京. 2006, 4, 21. 感染症学雑誌臨時増刊号 80: 288.
- 2 春田善男, 三田村未央, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 膠原病症例におけサイトメガロウイルス感染の臨床的検討. 第50回日本リウマチ学会. 長崎. 2006, 4, 25. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 303.
- 3 小荒田秀一, 三田村未央, 春田善男, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 関節リウマチ患者由来末梢血 CD4+T 細胞の Infliximab による機能的変動の解析. 第50回日本リウマチ学会. 長崎. 2006, 4, 25. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 168.
- 4 小荒田秀一, 三田村未央, 春田善男, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: Sero-negative SLE 患者 2 例における RP105陰性 B 細胞の解析. 第34回日本臨床免疫学会. 東京. 2006, 10, 2. 日本臨床免疫学会会誌 29: 267.
- 5 小荒田秀一, 多田芳史, 長澤浩平: RP105 陰性 B 細胞の意義と治療応用の可能性. 第50回日本リウマチ学会. 長崎. 2006, 4, 24. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 22.
- 6 多田芳史, 小荒田秀一, 春田善男, 三田村未央, 大田明英, 長澤浩平: RP105 分子の関節炎モデルにおける作用の解析. 第50回日本リウマチ学会. 長崎. 2006, 4, 24. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 126.
- 7 多田芳史, 小荒田秀一, 春田善男, 三田村未央, 大田明英, 長澤浩平: MDS を合併したベーチエット病の特徴: 自検例と本邦報告例の review. 第50回日本リウマチ学会. 長崎. 2006, 4, 26. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 213.
- 8 多田芳史, 小荒田秀一, 長澤浩平: Toll-like receptor homolog RP105 のコラーゲン関節炎における作用. 第43回補体シンポジウム. 福岡. 2006, 8, 19. 第43回補体シンポジウムプログラム抄録集 39.
- 9 民本泰浩, 堀内孝彦, 塚本 浩, 大塚淳司, 中島 衡, 小山貴子, 宮川 弘, 仲宗根亜紀, 三苫弘喜, 宮城友豪, 内野愛弓, 木本泰孝, 井上 靖, 上田 章, 小荒田秀一, 多田芳史, 長澤浩平, 安部康信, 牟田耕一郎, 原田実根: 難治性自己免疫疾患に対する抗 CD20 モノクローナル抗体療法の臨床第 I / II 相試験. 第50回日本リウマチ学会総会・学術集会. 2006, 4, 23-26. 第50回日本リウマチ学会総会・学術集会, 第15回国際リウマチシンポジウムプログラム抄録集 83.
- 10 三田村未央, 春田善男, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 皮膚筋炎の長期予後と死因の臨床的検討. 第50回日本リウマチ学会. 長崎. 2006, 4, 24. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 262.

- 11 長澤浩平, 多田芳史, 小荒田秀一, 春田善男, 三田村未央, 末松栄一, 堀内孝彦: ステロイド性大腿骨頭壊死症は予防できるか?—抗体凝固薬とスタチンによる試み—. 第50回日本リウマチ学会, 長崎, 2006, 4, 25. 第50回日本リウマチ学会プログラム抄録集 161.

地方規模の学会

- 1 井上博晴, 福岡麻美, 青木洋介, 梅口仁美, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 高柳 恵: 急激な経過で発症したリステリア髄膜炎の1例. 第76回日本感染症学会西日本地方会, 岡山, 2006, 11, 23. 第76回日本感染症学会西日本地方会プログラム・抄録集 81.
- 2 井上久子, 春田善男, 末松梨絵, 三田村未央, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: レフルノミド投与中に発症した悪性関節リウマチの一例. 第32回九州リウマチ学会, 熊本, 2006, 9, 9. 第32回九州リウマチ学会プログラム抄録集 48.
- 3 三田村未央, 春田善男, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 治療に難渋した肥厚性硬膜炎合併の顕微鏡的多発血管炎の一例. 第31回九州リウマチ学会, 宮崎, 2006, 3, 5. 第31回九州リウマチ学会プログラム抄録集 59.
- 4 三田村未央, 多田芳史, 末松梨絵, 井上久子, 小荒田秀一, 大田明英, 長澤浩平: 発症早期に妊娠した皮膚筋炎の一例. 第32回九州リウマチ学会, 熊本, 2006, 9, 9. 第32回九州リウマチ学会プログラム抄録集 45.
- 5 多良明子, 多田芳史, 三田村未央, 鐘江 大, 小荒田秀一, 井上久子, 大田明英, 長澤浩平: 不明熱で発症した特発性間質性腎炎の一例. 第32回九州リウマチ学会, 熊本, 2006, 9, 10. 第32回九州リウマチ学会プログラム抄録集 53.
- 6 多田芳史, 三田村未央, 小荒田秀一, 春田善男, 福岡麻美, 長澤浩平: シクロスポリンAを用いた免疫抑制療法中に発症したノカルジア症の4例. 第76回日本感染症学会西日本地方会, 岡山, 2006, 11, 24. 第76回日本感染症学会西日本地方会プログラム・抄録集 88.
- 7 戸山真吾, 春田善男, 三田村未央, 小荒田秀一, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 腹痛・腰痛を主訴とした高安静脈炎の一例. 第31回九州リウマチ学会, 宮崎, 2006, 3, 4. 第31回九州リウマチ学会プログラム抄録集 42.
- 8 梅口仁美, 井上博晴, 福岡麻美, 青木洋介, 長澤浩平, 永沢善三, 草場耕二, 高柳 恵: リネゾリドが有効であったMRSAによる人工弁感染性心内膜炎・脳膿瘍の1例. 第76回日本感染症学会西日本地方会, 岡山, 2006, 11, 23. 第76回日本感染症学会西日本地方会プログラム・抄録集 84.
- 9 吉澤 滋, 織部元廣, 古郷 功, 澤部琢哉, 上田 章, 吉澤誠司, 都留智巳, 永野修司, 多田 斉, 塚本 浩, 中島 衡, 堀内孝彦, 多田芳史, 大塚 毅, 長澤浩平, 草場公宏: 関節リウマチ (RA) に対する抗TNF製剤の有効性の検討(第3報). 第31回九州リウマチ学会, 2006, 3, 4. 第31回九州リウマチ学会プログラム抄録集 49.

その他の学会等

- 1 小荒田秀一, 三田村未央, 井上久子, 末松梨絵, 多田芳史, 大田明英, 長澤浩平: 佐賀大学におけるレミケード投与の実際—クリニカルパスの利用状況. 第2回佐賀リウマチ研究会, 2006, 7, 28.
- 2 長澤浩平, 小荒田秀一, 多田芳史: 自己免疫疾患における自己抗体産生B細胞を標的とした治療の開発. 厚生労働省班会議, 東京, 2006, 1, 18.
- 3 長澤浩平, 小荒田秀一: 抗凝固薬とスタチンの同時投与はステロイド性大腿骨頭壊死症を予防できるか? 厚生労働省班会議, 京都, 2006, 7, 1.

- 4 長澤浩平, 小荒田秀一, 多田芳史: 自己免疫疾患における自己抗体産生B細胞を標的とした治療の開発. 厚生労働省班会議. 東京. 2006, 12, 22.

研究助成等

職名	氏名	補助金(研究助成)等の名称	種目	研究課題等	交付金額 (千円)
教授	長澤 浩平	平成18年度科学研究費補助金	基盤研究(C)(2)	B細胞上のRP105分子の総合解析—自己免疫疾患における機能から創薬まで—	2,200
教授	長澤 浩平	平成18年度厚生労働科学研究費 特定疾患対策研究事業	骨・関節系研究班大腿骨頭壊死症調査研究分科会(分担)	特発性大腿骨頭壊死症の予防と治療の標準化を目的とした総合研究	700
教授	長澤 浩平	平成18年度厚生労働科学研究費	免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業(分担)	免疫疾患に対する免疫抑制療法等先端的新規治療法に関する研究	2,000
教授	長澤 浩平	平成18年度民間との共同研究		自己免疫疾患患者由来RP105陰性B細胞の膜上に特異的に発現する分子の同定と当該細胞の自己免疫疾患発症における役割に関する研究	1,950
教授	長澤 浩平	平成18年度民間との共同研究		自己免疫患者由来樹状細胞の膜上に特異的に発現する分子の同定と当該細胞の自己免疫疾患発症における役割に関する研究	487